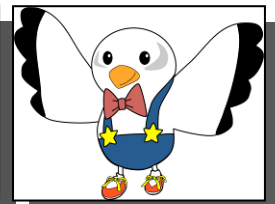


～子供に夢や感動を！～

# 東京教師養成塾通信

発行日 平成 27 年 5 月 10 日  
<第 1 号>  
発行元 東京都教職員研修センター  
研修部教育開発課  
電話 03-5802-0318



東京教師養成塾は、関係大学や教師養成指定校、学校経営支援センター、区市町村教育委員会との連携を図り、東京都の教員に必要な豊かな人間性と実践的指導力を兼ね備えた人材を、学生の段階から養成しています。今年度で 12 年目を迎え、これまでに約 1,300 名以上の修了生が東京都の教員として活躍しています。

「東京教師養成塾通信」は、東京都教育委員会が設置した東京教師養成塾の活動について広く知っていただくための通信です。

## ●平成 27 年度 東京教師養成塾 入塾式

平成 27 年 4 月 2 日（木）東京都教職員研修センターにおいて、平成 27 年度東京教師養成塾入塾式を挙行了しました。都内及び近県の関係大学 33 校から 149 名の第 12 期養成塾生が、期待に胸を膨らませながら、緊張した表情で入塾式に臨みました。当日は、塾生の新たな門出を祝い、明星大学 大橋有弘学長、東京学芸大学 岩田康之学長補佐、十文字学園女子大学 増田吉史副学長、東京未来大学 近藤俊明副学長をはじめ、学校経営支援センター、関係区市教育委員会、教師養成指定校、関係大学担当者等多くの方々にご参列いただきました。

養成塾の塾長である東京都教育委員会 中井敬三教育長は、式辞の中で「特別教育実習をはじめとした養成塾の各講座を通して、全ての子供たちを大切に育てていくために、鋭い人権感覚を身に付け、子供の変化を鋭敏に受け止め、一人一人の可能性を最大限に伸ばせるように自らの指導力を高めていくことを常に心掛けてほしい」ということや、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に触れ、「自分たちの住む東京、日本に誇りをもち、諸外国に東京や日本の素晴らしさを発信できる子供たちを育てることが出来る教師になってほしい」と、塾生へ期待と励ましの言葉を送りました。



—宮澤塾生による塾生代表の言葉—

また、入塾者代表として、昭和女子大学 宮澤里奈塾生が、「無限の可能性を秘めた子供たち一人一人に、確かな学力の定着と体力の向上を図り、思いやりや豊かな感性といった人間性を育成していきたい。そのためにも、一人一人の個性や思いを把握し、子供たちの声に耳を傾け、その思いを受け止め、一生懸命応えられるような教師になるため常に学び続ける努力をしていきます」と、力強く決意の言葉を述べました。

今後、第 12 期養成塾生は、34 区市 84 校、都立特別支援学校 13 校の各教師養成指定校における特別教育実習や講義、ゼミナール、体験活動の講座を通して、教師としての使命感や実践的指導力、柔軟な対応力等を身に付けていきます。

## ●第 1 回ゼミナール

### 「特別教育実習で身に付ける実践的指導力～教師に求められる指導力～」

平成 27 年 4 月 4 日（土）に、第 1 回ゼミナールを実施しました。今回は、養成塾生として身に付けるべき資質・能力について具体的な事例を通して学び、特別教育実習に向けて具体的な課題を設定することをねらいとしました。

初めに「東京教師養成塾で学ぶ塾生に期待すること」と題して、坂本教喜主任指導主事が、東京都の教育課題、養成塾生に求められる姿や心構えについての講義を行いました。塾生が意識することとして、「具体的な教師像をもつ」「コミュニケーション能力を高める」「基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける」「スケジュールを管理する」の 4 点の大切さについて伝えました。また、「教師になった時にどのように生かすことができるのか」という意識、視点をもって日常生活を送り、周囲の様々なものを教材化する眼を養う」「幅広く教養を身に付けること」「困難に直面したときは教師を目指した原点に戻ること」といった具体的な取組内容についても話がありました。塾生は、高い志をもって 1 年間学ぶと同時に、「学ばせていただいている」という謙虚な気持ちを忘れないことも再確認しました。

次に、酒見裕子指導主事が、「特別教育実習で身に付ける実践的指導力」と題した講義・演習を行いました。特別教育実習では自分の課題を明確にして臨むことが大切であるとの話がありました。塾生は、講義を通して小学校又は特別支援学校で特別教育実習を行う際の具体的な視点を、演習を通して一単位時間の授業を観察する際の課題設定の仕方、学校組織における教師全体の動きを踏まえた自らの動き方について学びました。

塾生たち一人一人が、熱心にノートに書き込みながら講義を聞いたり、演習に取り組んだりしている姿勢から、特別教育実習に向けた強い意気込みが伝わってきました。

#### 【塾生の感想より】

- ・ 今まで大学で学んできた理論と実践を踏まえて確認しつつ、自らの糧にしていくことが重要であると学んだ。特に授業実践は、実際に子供たちに向けて行うため大きな不安もあるが、先生方に御指導を受け、仲間とも協力をしながらよりよい授業を展開することができる力を身に付ける努力をしていきたい。
- ・ 特別教育実習に臨むに当たり、課題意識をもつことが大切であると思った。課題意識をもち、常に様々な視点で実習に取り組む姿勢を大切にしたい。



—講義・演習の様子—

## ● 第1回講義

### 「教師に必要な教養とは～モラトリアムの時期に準備しておくこと～」

平成27年4月18日(土)、東京教師養成塾の副塾長である東京都教職員研修センター 安間英潮研修部長を講師とし、第1回講義「教師に必要な教養とは～モラトリアムの時期に準備しておくこと～」を実施しました。今回の講義は、教師としての教養を高める意義を学ぶとともに、生涯を通して学び続ける楽しさや喜びを理解し、学習者としての態度を身に付けることをねらいとして行いました。

社会・世界が多様化し、変化のスピードが増す中、求められている資質というものは短いサイクルで変化をしている。このような時代に必要な力として「受け身ではなく主体的に行動し、論理的思考力・判断力を身に付け、問題解決できる力」「問題解決をするために目的集団として互いに尊重し合いながら合意形成できる力」が大切であるという話がありました。これらの力を身に付けるために「常に何のために行うのかミッションを具体的にもってから取り組むこと」「そのためにも自分の言葉で内容を語れるようにすること」「相手の心を感じ取る感性を磨いていくこと」について意識をし、日々の特別教育実習や生活を送ることの大切さについて話がありました。

教養は教育や豊かな経験を通して育まれるもので、義務教育の時期で多く育まれるということや基礎・基本の重要性、学ぶことの意味を理解することの大切さなどの話を受け、塾生たちは、自らが意識すべきことが明確になり、東京都の教育に関わる教師として大きなやりがいを感じていました。

#### 【塾生の感想より】

- ・ 教養とは、知識そのものではなく、様々なことを知り、それを基にして何ができるかということに関わってくるということ学んだ。実習や日頃の生活の中で多くの経験をし、幅広い教養を身に付けたい。
- ・ 具体的には、授業の参観や実践を通して、そこでの学びや反省を自分の言葉でまとめたり、他者に語ったりすることを大切にす。また、子供や周囲の人の様子を肯定的、共感的に受け止め心理的な動きを感じ取れるようにしたい。「その肯定的・共感的な受け止めはベースであり、指導の際にはまた違った受け止めが必要である」という内容については、実習で学びを深めていきたい。



—安間英潮研修部長による講義—

#### 【連載シリーズ コラム①】

### ◆子供との関係を築く ～深い愛情・積極的なコミュニケーション～◆

東京教師養成塾教授 時田 明子

オリエンテーションとも言える4月を終え、いよいよ本腰を入れて実習に取り組む時期になりました。4月当初は、とにかくがむしゃらに実習に励んでいたと思いますが、緊張感が少しずつほぐれ、初めての研究授業にどのように取り組んだらよいのか、子供ともっと関わりを深めていくためにはどのようにしたらよいのか、心を悩ます問題が次々に出てきている頃ではないでしょうか。このような時期に、教師と子供の関係づくりについて改めて考えてみることはとても大切なことです。

#### ○ どの子供にも公平に接する

私たちは社会に出ると、理想とは違って、必ずしも公平ではない現実に出会うことがしばしばあります。けれども義務教育機関である小学校は、教育基本法を紐解くまでもなく、一人一人の子供にとって真に公平な場でなければなりません。なぜなら小学校は人間形成の基礎づくりをすることが大きな目標だからです。そして、人間はかけがえのない存在であり、どのような状況にある人でも決しておろそかにしたり、軽んじたりしてはならないことを徹底して教えていく必要があるからです。そのことを教えるのは教師の大きな役割です。どの子供にも愛情をもって温かい眼差しを向け、公平な態度で接することにより、子供たちは、教師や人間に対する信頼感を胸に植え付けていくに違いありません。

#### ○ 子供と語り合うこと

「子供との関係を築くためには、子供と遊びなさい」とよく言われます。一緒に汗だくになって遊ぶことにより、教師も子供もまとっていた鎧を脱ぎ捨てて関わるができるからかもしれません。ただ、私は、皆さんに、子供と遊ぶだけではなく、時間を見付けながら一人一人の子供とできる限り語り合ってほしいと思うのです。何気ない日常的な会話をたくさん積み重ねてほしいと思うのです。そのような関わりをもつことで、遊んだだけでは分からない子供のことが分かってくるように思います。できれば、心を開かせるユーモアというスパイスを付けることも忘れずにいたいものです。

最後に、子供と信頼関係を結ぶためには、子供との約束は絶対に守ることを付け足しておきます。

この1年間、皆さんが自分の目指す教師像に向けて、深く考え実践することを期待しています。